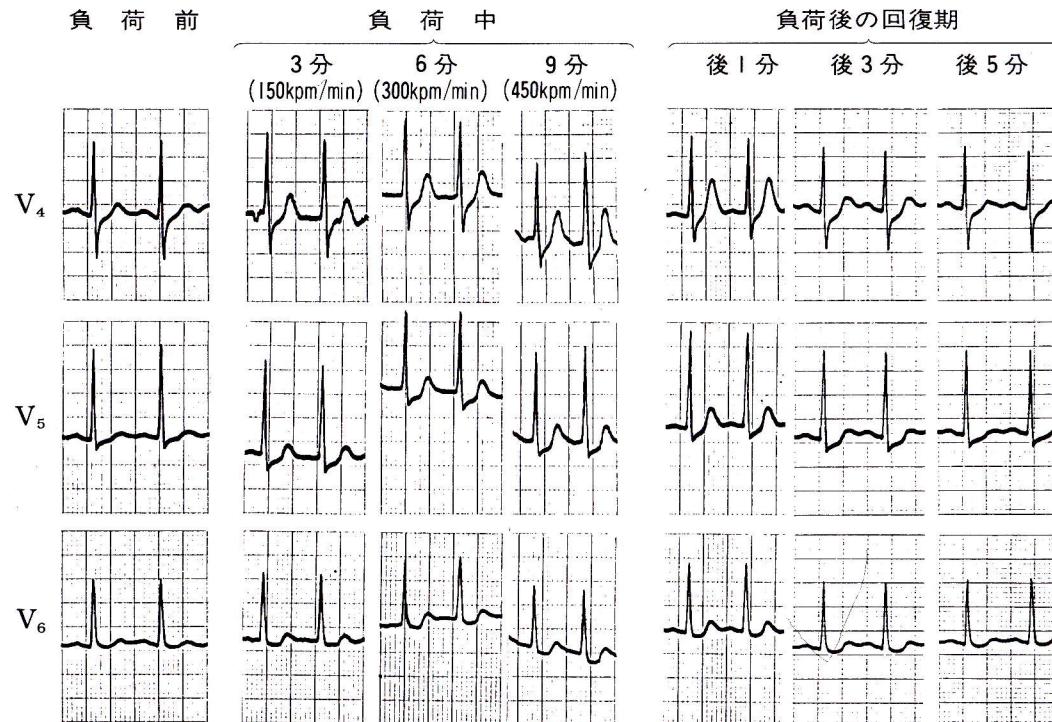


## 症例 72

●56歳 男

- 労作性狭心症の患者で、自転車エルゴメータ負荷試験施行時の心電図所見である。  
8分の時点で胸痛が誘発されている。



- 1) V<sub>4</sub>, V<sub>5</sub>には安静時からST部分の低下、T平低を見るが負荷心電図の判定はどうか。

## 運動負荷試験陽性

運動負荷9分(450kpm/min)の時点でV<sub>4</sub>にjunction型3mm, V<sub>5</sub>に水平に近いjunction型2.5mm, V<sub>6</sub>に水平型1mmのST低下を認める。V<sub>4</sub>, V<sub>5</sub>には

負荷前から0.5~1mmのST低下がみられるが、負荷により明らかに増強しているため、判定は陽性である。

### MEMO

#### 〈多段階負荷試験〉

158

トレッドミル、自転車エルゴメータを用い、軽い負荷量から段階的に負荷量をあげていく方式。負荷中の心電図変化、心拍数、血圧などをモニタできるため、リスクの高い患者の負荷試験に適しており、また負荷量と心電図変化、自覚症状との関係がわかるため、重症

度判定にも用いられる。判定基準としてはMasterの基準に準ずるが、一般にMasterの2階段試験より負荷がかかるため、ST低下の基準は水平~下向型で1mm以上をとる人が多い。